

# 三日刊 每日新聞

福島縣石城郡平町新屋町十四  
印 刷 行人 田 弘 成  
福島縣石城郡平町新屋町十四  
印 刷 所 加納活版所  
福島縣石城郡平町新屋町十五  
發行所 磐城時報社  
一部金販額一ヶ月金參拾錢  
廣告費一行四字諸金五十二錢  
日 報、祭日 休  
刊

瀬炭礦でも非常に筒井氏の事業  
開始を期待してゐるが、不況の  
底に陥つた常磐炭礦界も赤  
時代の現出を期待されてゐる。  
城炭礦の住吉坑着炭、入山炭礦  
古河炭礦の新坑開鑿、それに赤  
井坑、川瀬坑の復活等新事業計  
劃が出来、常磐炭礦界もこの不  
況から脱出して再び往年の好況  
の時代へと戻る。また、常磐炭  
礦は、瀬炭礦の新坑開鑿、それに赤  
井坑、川瀬坑の復活等新事業計  
劃が出来、常磐炭礦界もこの不  
況から脱出して再び往年の好況  
の時代へと戻る。

## 消防基金使途不明で 上眞野村採めら

原町通信  
伏見組頭排斥問題  
おちば

ながらも一寸日光を見せたの  
で人出はあつたが氣抜けの体  
で賣物は恩か飲食店なども閉  
散であつた。

▲濱二郡武德大会 濱  
三郡武德大道は双葉郡浪江警  
察署武德會支部主催にて来る  
(柔劍)大弓は同町常福寺内に  
二十日午前八時より浪江座  
興行する。

### 比佐代議士を説得すべく

#### 野崎縣議上京

愈々紛糾する縣參問題

結局は相馬の猪狩氏か

#### 小名濱修築

選出猪狩氏に縣參の鉢が廻る

ではないかと見られてゐる。

ではなかつたがこれに伴ふ明

年以後の年度支出割は左の如く

変更された。

小名濱港の修築費は既報の如く

十萬圓となつたがこれに伴ふ明

年以後の年度支出割は左の如く

変更された。

五年度 一〇〇〇〇〇〇〇

六年度 三五〇〇〇〇〇〇

七年度 三五〇〇〇〇〇〇

八年度 三五〇〇〇〇〇〇

五年度 三五〇〇〇〇〇〇〇

六年度 三五〇〇〇〇〇〇〇

七年度 三五〇〇〇〇〇〇〇

八年度 三五〇〇〇〇〇〇〇

九年度 三五〇〇〇〇〇〇〇

十年度 三五〇〇〇〇〇〇〇

十一年度 三五〇〇〇〇〇〇〇

十二年度 三五〇〇〇〇〇〇〇

合計 三五〇〇〇〇〇〇〇〇

### 平署高等總掛りで

#### 大井川幸隆を留置し

引致者十名に達す

平地方に最近無産新聞の秘密頒布を爲す者あり、頻々として各所に發見されるので平署高等係共産黨再建運動に重大關係ある

では大活動を開始し労農農業などの見られてゐる。

行動を嚴重内偵中の處九日平町

七日丁目労農運動部幹部大井川

幸隆(二二外九名)も引致取調を

開始してゐるが十二日午前七時

一日迄の秋刀魚漁獲高は出漁船

來る十五日頃から愈々正式に事

業に着手する事になつた。同坑

石城郡好間村小田炭礦所有赤井

田炭礦重役會に於ても筒井氏と

村礦區は財界不況の結果四年前

の契約を承認したので筒井氏は

に廢坑とした儘になつてゐたが

今回同村請負業者筒井経治氏が

同會社と斤先契約をなした結果

は廢坑は廢坑になつてゐたので

前記廢坑に於て採炭を開始する

事に決定、去る六日開かれた小

必要な設備をするには約十萬圓

### 筒井氏の採炭計劃で

#### 惠まれる川瀬炭礦

聯絡する兩坑の水脈

平地方に最近無産新聞の秘密頒布を爲す者あり、頻々として各所に發見されるので平署高等係共産黨再建運動に重大關係ある

では大活動を開始し労農農業などの見られてゐる。

行動を嚴重内偵中の處九日平町

七日丁目労農運動部幹部大井川

幸隆(二二外九名)も引致取調を

開始してゐるが十二日午前七時

一日迄の秋刀魚漁獲高は出漁船

線原の町驛十月の業績は乗客數は二萬三百二人で降客は二萬六百三人、而して旅客收入は一萬四百十七圓五十一錢、貨物收入は千三十二圓十七錢なり。

相馬郡上眞野村消防基金七百余

民衆黨石城支部擴大委員會は十

六、七日の頃平町南町事務所に

於て開催する筈。

▲社民黨委員會 社會

會議員伏見直重の兩名に不審の

點ありとて豫て中村署に於て取

調中なる事は既報の如くなるが

之が黑白を辨せんには多年平

和の村内に紛争を來さんとて去

る十一日村役場にては村會議員

を召集し同日午前九時より議事

堂に於て兩責任者に對し詰問し

現伏見組頭に辭職勧告等も話題

となり一悶着を起したるが、之

れかあらぬか其前日即ち十日村

役場にては村會議員

を召集し同日午前九時より議事

堂に於て兩責任者に對し詰問し

現伏見組頭に辭職勧告等も話題

となり一悶着を起したるが、之

れかあらぬか其前日即ち十日村

役場にては村會議員

を召集し同日午前九時より議事

堂に於て兩責任者に對し詰問し

現伏見組頭に辭職勧告等も話題

となり一悶着を起したるが、之

れかあらぬか其前日即ち十日村

役場にては村會議員

を召集し同日午前九時より議事

堂に於て兩責任者に對し詰問し

相馬郡上眞野村消防基金七百余

民衆黨石城支部擴大委員會は十

六、七日の頃平町南町事務所に

於て開催する筈。

▲相馬戶籍吏會 相馬

郡石神村信用組合にては豫て

貯藏倉庫の必要を感じつゝあ

つたが過日來より同村太田亥之助氏

請負となり石藏新築中の處此

貨物收入は千三十二圓十七錢

なり。

▲原町驛の業績 常磐

線原の町驛十月の業績は乗客

數は二萬三百二人で降客は二

萬六百三人、而して旅客收入

は一萬四百十七圓五十一錢

貨物收入は千三十二圓十七錢

なり。

▲信託庫落成 常磐

郡石神村信用組合にては豫て

貯藏倉庫の必要を感じつゝあ

つたが過日來より同村太田亥之助氏

請負となり石藏新築中の處此

貨物收入は千三十二圓十七錢

なり。

▲山上組合村會 相馬

郡山上、玉野組合村會は十一

日鹿島小學校内に午前九時よ

り開會した。

▲相馬戶籍吏會 相馬

郡各町村役場戸籍吏會は十二

ながらも一寸日光を見せたの  
で人出はあつたが氣抜けの体  
で賣物は恩か飲食店なども閉  
散であつた。

▲濱二郡武德大會 濱

三郡武德大道は双葉郡浪江警

察署武德會支部主催にて来る  
(柔劍)大弓は同町常福寺内に  
二十日午前八時より浪江座  
興行する。

ながらも一寸日光を見せたの  
で人出はあつたが氣抜けの体  
で賣物は恩か飲食店なども閉  
散であつた。

▲原町驛の業績 常磐

線原の町驛十月の業績は乗客

數は二萬三百二人で降客は二

萬六百三人、而して旅客收入

は一萬四百十七圓五十一錢

貨物收入は千三十二圓十七錢

なり。

▲信託庫落成 常磐

郡石神村信用組合にては豫て

貯藏倉庫の必要を感じつゝあ

つたが過日來より同村太田亥之助氏

請負となり石藏新築中の處此

貨物收入は千三十二圓十七錢

なり。

▲山上組合村會 相馬

郡山上、玉野組合村會は十一

日鹿島小學校内に午前九時よ

り開會した。

▲相馬戶籍吏會 相馬

ダイナマイトを弄んで

1. 5) 命名權 10 扶

演習の折柄平署で  
火薬の出所を嚴重調査中

十三日午後一時十分頃石城郡内  
郷村大字高坂磐城炭礦高坂坑近  
藤飯場附坑夫佐藤義雄(二二)は  
晝食後ダイナマイトを弄んでゐ  
るうち俄然大音響と共に爆發し  
義雄は顔面、胸部其他に大火傷  
を負ひ高坂病院に昇ぎ込み手當  
中であるが生命危篤である。平  
警察署では特別大演習執行の折  
柄、火薬の出所につき嚴重取調  
べる必要あり鯨岡次席警部以下  
刑事數名現場に出張調査中であ  
る。

▲乞食が無錢飲食 東  
白河郡近津村生れ前科四犯渡邊  
直太郎(六二)といふ乞食は十二  
日夜大膽にも懷中無一文で平驛  
前某飲食店で二十五錢の飲食を  
なし勘定を催促されて暴れた  
め平署に検束された。

四  
十  
月  
成  
局

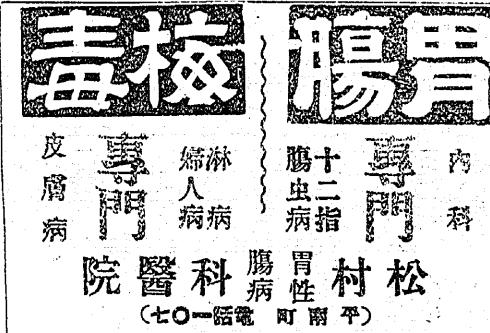
四倉郵便局の十月分取扱状況左

貯金受入千百口三萬三千六百  
十二圓五十四錢，同拂出六百  
六口二萬一千二百八十八圓四  
十九錢，爲替五百四十五件一  
萬四千四百九十二圓二十四錢  
同拂出五百三十三件二萬一千  
二百八十八圓四十九錢

四倉町の賽錢泥棒十一日前六時頃四倉驛を徘徊してゐる舉動不審の男を四倉署柴田巡査が取調べるとこの男は秋田縣仙北郡金澤西根村生れ當時住所不定土工佐藤吉藏(二十九)と言ひ十日午後八時頃四倉町新町三寶荒神社の拜殿に忍び入り賽錢を窃取した犯人で尙ほ余罪として去る三日午後四時頃石城

乞食か無錢飲食  
河郡近津村生れ前科四犯渡  
太郎(六二)といふ乞食は十  
歳大膽にも懷中無一文で平  
素飲食店で二十五錢の飲食  
の勘定を催促されて暴れた  
署に検束された。

東邊三驛をとる。



近 日 公 謹 絶 對 責 任 特 別 大 興 行  
關 東 浪 出 雷 太 鄭 桃 中 軒 小 雲 右 衛 門  
雲 井 雷 太 鄭 桃 中 軒 小 雲 右 衛 門  
浪 花 亭 奴 浪 花 亭 奴  
玉 川 太 鄭 東 洋 軒 雷 右 衛 門  
後 梭 平 親 隆 會 東 京 滅 草 親 隆 會  
聚 樂 館 支 部

## 團體人法帝國教育會臨時出別張主催會一發聲映畫大會

○御祝儀  
◎友仙モ

浪花節 ◎新讀 ◎一  
寒實田縮時弊店に買ひし